

# 教育機関・自治体と連携した小SNS

## ☰ 概要

自治体で多様な福祉支援を行っているにも関わらず  
子どもや親は活動を知る機会がなく、環境を整えても参加者は増えない。  
また親と一緒に過ごす時間が少ない、虐待を受けるこどものSOSを発信するための  
媒体を持ち合わせていないことが多い。

近年では小・中学校でのタブレットを使用したオンライン授業などが  
パンデミックにより大幅に推進された。  
子どもや親が悩みの相談を挙げずらい、自治体の活動を知ることが難しい状況の中、  
文字を起こして相談、活動の案内や報告を投稿するツールとして適切と考える。

各教育機関で貸し出されるタブレット類の端末で  
授業教材だけでなくアンケートや相談用のプラットフォーム・イベント告知を  
教育機関・自治体、子・親同士のグループで相談・情報提供が行えるSNSがあると良いと考える。

SNS上での個人の匿名性を保持し、貧困による困りごとや学校生活での悩みを投稿し、  
それに対して他の親からのアドバイスを受け、自治体や教育機関は  
投稿者に対して相談の案内を行い、積極的なサポートを行える環境を作る。

## ☑ 解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？

子を持つ世帯の子育てで困る場面、経済的な貧困・親同士のコミュニケーション  
子ども自身の虐待をどのようにしたら他者に気兼ねなく知らせる環境を作り上げるか。

## ☑ 解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。

SNSの投稿内容をAIにて分析し、行政・法人が行っている支援・イベント・窓口に関して  
適切な案内を行う。

SNSの利用媒体は各教育機関から貸与されるタブレット端末を用いて行いが、  
利用者は教育機関にてタブレットを保持するものとして管理するため  
SNSで個人情報を登録する必要はない。SNSは投稿のみを可能とするが、  
緊急時の教育機関への通報を行う機能を有する。  
通報を行った際、タブレットを保持する子の親へ確認連絡を行うよう管理者へ通知される。

また投稿前のプレビュー機能を有し、  
関連した内容の他投稿者のトピックスで紐づけ、どのような解決があったかを表示する。  
行政や法人は投稿されたトピックスの重大性をAIにて「貧困」「虐待」などの文言で紐づけ  
管理し、福祉、心理支援の案内をアプリ内の一覧に表示する。  
AIの利用規約に関して、個人情報に結びつかない汎用の文字のみを利用し、  
利用者が使用しているタブレット端末は管理する教育機関に属する前提で、教育機関の所在地周辺の  
情報提供を行うことを主とする。  
虐待とされる安全が脅かされている投稿は、教育機関へ個別にメールによる通知がされる。  
教育機関は投稿を確認し、割り振られたタブレットの管理番号から個人情報を行政に連絡し、  
対応を要請する。

行政は投稿内容で課題が可視化されることで、法的支援を行う必要性や  
他行政機関（文科・司法・警察）への連携をスムーズかつ迅速に行うことができる。  
また投稿課題の件数や地域間での課題比較を行うことで、行政が地域で多く発生している課題の  
原因調査を行うための統計情報として活用できる。

SNSの投稿を行った後、案内された解決手段により解決したかを利用者自身が更新する。  
またSNSから案内を受けて参加した支援やサポートにてどのような媒体からイベントを知ったかなどアンケートされた場合にアクティブな利用者が確認できる。

## 類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）

児童虐待に関して、日本の場合は「189」による児童相談所への連絡が行える。  
スマートデバイスによる通報や連携は現状では見当たらない。

## 有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）

スマートデバイスの教材利用が普及したことで成り立つが、  
教育機関と地方自治体がデバイス所持者の福祉支援の投稿を連携させることでより支援が必要な利用者に広く手段として普及される。

## 実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

### ①契約

タブレット教材を使用している教育機関でタブレット管理番号ごとの個人を  
教育機関が所在する自治体の個人と紐づける契約の締結を行う。  
自治体が定義する個人情報の取り扱い及びプライバシーの保護の規約をもとに  
タブレットの貸与時に利用者の世帯主の同意をとる必要がある。

### ②規約

アプリの利用はタブレットの操作者であればだれでも利用ができる。  
個人の特定はタブレット利用の世帯主に紐づくため、利用時の個人登録は行わない。  
教育機関ごとに割り振られたIDを入力してアプリケーションへのログインを行う。


### ③アプリにおける連携情報と範囲

アプリはタブレットを貸与している教育機関が所在する自治体ごとに管理される。  
具体的には、利用者が投稿した内容に関して、支援案内や過去のトピックスの紐づけは  
同じ自治体内で投稿された内容のみとなる。  
ただし、自治体のアプリ管理者が他自治体の福祉情報を任意に引用して紐づけることを  
可能とする。  
アプリは利用者は安全が脅かされた場合に、行政への通報を実施することが可能とする。  
行政は通報からタブレット管理番号を元に教育機関へ個人の照会を行うことができ、  
利用者の世帯主への確認を行うことができる。  
アプリ管理者となる自治体は他自治体と同一のプラットフォームで管理を行う。  
他自治体で解決された投稿を引用登録し、自治体内の投稿のトピックス紐づけ  
データとして利用することを可能とする。

タブレット利用者は投稿、案内や通知の確認をタブレットで行うことができる。  
投稿者は投稿した内容に対して解決したかリアクションを可能とする。

### ④システム構成

クラウドサーバにてWebAP、DBサーバを使用する。  
自治体は教育機関を利用者が所属する団体ごとに管理する。  
アプリは各教育機関が貸与する前にタブレット初期設定としてインストールを実施でき、  
固有の教育機関番号でログインすることができる。

 課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

 期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

・導入

条件定義 5か月

設計書作成 2か月

アプリケーション開発 3か月(Server)

4か月(タブレットアプリケーション)

単体テスト 1.5か月

システムテスト 1か月

操作説明・マニュアル配布 1か月

 未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください